

学校 教育 目標	「みんなで認め合い 学び合い やりぬく本牧の子」 ～自分大好き 友だち大好き 本牧大好き～ <知>しっかり聞き、しっかり話し、主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育てます <徳>自分を大切にし、人を思いやる心を育みます <体>運動やスポーツに積極的に取り組み、心身ともにたくましく生きる力を育みます <公>本牧を愛し、自分の役割や働くことに積極的に取り組む態度を培います <開>多様性を尊重し、心を開き、進んでコミュニケーションがとれる力を育てます					
学校 概要	創立 34 周年	学校長 高田 麻里	副校長 新谷 亜希子	2 学期制	一般学級: 12	個別支援学級: 5
	児童生徒数: 350 人 主な関係校: 大島中 本牧中 大島小 本牧南小 間門小					

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	大島中・本牧中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
■主体的に社会参画する力 ■自己や他者を理解する力 ■夢や希望をもち、生き方を追求する力	大島中学校 本牧中学校 大島小学校 間門小学校 本牧南小学校 本牧小学校	ふるさと本牧を担う子どもの育成 ○本牧のまちと関わりながら学び、まちを大切にすること ○多様性を尊重し、豊かなコミュニケーション力をもつ子ども ○学習や生活のよい習慣を身につけ、確実に自分の力を伸ばそうと努力する子ども ・「本牧のまち」との関わりやつながりを大切にする学びのマネジメント。 ・小中合同授業研究会を設定して児童生徒の学習や生活のスムーズな接続。 ・2中4小合同運営協議会や学業地連、関係機関との連携を通して、本牧のまちに 生きる子どもの健全な育成。

中期 取組 目標	子どもも大人も「みんなが楽しい本牧小楽校」の実現を目指します ○子ども一人ひとりの思いを大切にしながら、主体的に考え、意欲的に学び続ける力を育てます。 (1年目)自分で表現することの楽しさを実感できる授業づくりを推進します。 (2年目)自分らしく表現することを大切にしながら伝え合う力を育てます。 (3年目)自分の思いや考えを伝え合いながら、自分の考えを深められる力を育てます。 ○日々の見取りとデータを活用しながら、子ども一人ひとりの変化を捉え学びの充実に生かします。 ○保護者・地域との連携をはかり、子どもたちがまちの人とのつながりを大切に、「ふるさと本牧」を愛する気持ちを育てます。 ○全教職員が育てたい子どもの姿を共有し、自立と協働を基盤としながらチーム力を発揮できる職員集団をつくります。					

重点取組分野		具体的取組
知	生きて働く知	①単元や一単位時間で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりをする。本時のめあての確認と振り返りの時間を取り入れ、子どもが自分の学びを判断して選択しながら学習を進められるようにする。 ②職員の「スキルアップ研修」を通じて授業改善を進め、主体的に表現しようとする子どもの育成を目指す。 ③自己選択・表現の場の意図的設定、問題解決に向かう学習計画等のカリキュラム・マネジメントを行い、子どもが学習の主体となる授業を行う。
	担当 スキルアップ、評価	
徳	豊かな心	①「特別の教科 道徳」では、子どもが自分ごととしてとらえ向き合えるようにし、自分の思いを表出しながら自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。 ②えみたか活動等での異学年との交流を通して、他者とのつながりを大切に、他者を尊重する態度を養う。 ③人権週間・月間の取組を通して、自分を大切にすること、思いやりの心を育てる。また、取組を発信し、人権を意識する機会を広げる。
	担当 道徳、えみたか、人権	
体	健やかな体	①子どもが主体的に楽しみながら活動できる体育的行事や集会を実施することで、日常的に運動に取り組む態度を養う。 ②年2回の学校保健委員会や、健康診断、体力・運動能力調査の結果を活用し、子どもの体力向上や健康に過ごす意識を育てる。
	担当 体育、保健	
公 開	自分づくり教育	①「自分づくりパスポート」の積極的な活用を図り、学期や行事ごとに子ども自身が体験を振り返ることで、自分の成長を実感し、更なる成長につなげていく。 ②本牧のまちや、地域の「材」を活用した学習を学年に応じて設定し、地域の人と関わることで、まちのよさに気づくとともに、地域に愛着をもてるようにする。
	担当 特活、生活・総合	
いじめへの対応		①子どもたちが話し合う機会を年間計画に設定し、子ども自身が考える未然防止への取組を進める。 ②月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。 ③毎日の健康観察や年2回のいじめアンケート、日常の児童理解の中で、些細な変化を見逃さない体制づくりをし、未然防止に努める。
担当 児童指導・いじめ		
特別支援教育 多文化共生		①特別支援教室、個別支援学級や国際教室ともに子どもの状況について情報共有を密にし、子どもが安心して学習できる支援や環境づくりを推進する。 ②一人ひとりの多様性に応じ個別の支援計画・指導計画を作成し、保護者とも連携しながら指導に生かす。 ③支援を要する子どもについてケース会議や研修等を実施して共通理解を図り支援体制を整える。
担当 特別支援		
児童生徒指導		①一人ひとりが安全で安心できる学校生活を送れるようにするため、「学校生活のきまり」をもとに、全子ども・教職員・保護者で共通理解を図り指導にあたる。 ②児童理解の時間を定期的に設定し、子どもの状況を全職員で共通理解し、問題行動等の早期発見・早期対応に努める。 ③年2回YPアセスメント(6月、11月)を全校で行い、学年やブロック毎に支援検討会を実施し、課題に合った横浜プログラムを行う。 ④不登校や保健室登校の子どもに寄り添って学習の仕方や支援の仕方の在り方を探り、学び方を選択しながら学びが継続できるようにする。
担当 児童指導・人権		
人材育成 組織運営(働き方)		①メンティの課題意識に合わせたメンター研修を設定し、ミドルリーダーが指導助言にあたる。 ②教務会や学年主任会を行い、ミドルリーダー等が全体を見通して学校を運営していく場を設定する。 ③ICTを活用した業務の効率化や情報の共有化を図るとともに、組織的な働き方改革につなげる。
担当 教務		
情報教育		①ロイノート等を使い、子ども一人ひとりの学びの過程を見取りながら子ども同士が協働的に学んだり、自らの学びを調整したりできるようにする。 ②情報モラル教育を教科・領域との関連を具体的に例示し、各学年で丁寧に指導していく。授業参観・懇談会や面談等でタブレットやインターネット利用の現状に触れ、家庭と学校が連携して指導を行えるようにする。 ③学校図書館の計画的な利用や読書活動の推進により本を読む習慣を身につける。
担当 情報、図書		
安全教育		①防災に対する意識を高めるとともに、避難の仕方・家族の約束事等、様々な災害時における適切な避難についての指導を行う。 ②訓練を通して、一人ひとりが考え、自分の命を自分で守る行動をとることができるようにする。 ③地域と連携した防災訓練を実施し、地域とのかかわりを進めていく。 ④危機管理(防犯・防災)マニュアルに基づき、災害発生時や学校事故等の緊急事態発生時に適切で迅速な対応ができるよう訓練等を通して管理能力を高める。
担当 学校安全		